子どもを通して、まちに関わる

～空き地の公共活用から木造密集市街地の魅力向上をめざす～

クリスマス企画の様子

■活動地域
東京都中野区弥生町三丁目周辺地区/川島商店街
■活動期間
2016 年 6 月～継続中
■活動体制
工学院大学 野澤研究室／UR 都市機構
■活動キーワード
木像密集市街地／公共的空間活用／商店街活性化／子どもまちづくり
■2017 年度活動メンバー
M2 島田泰仁 杉浦美穂 富田俊介／M1 成田周平 和田健／B4 濱紗友莉 舘野智紀

-活動経緯-

弥生町三丁目周辺の防災整備事業を行う際に UR 都市機構が取得した従前居住者用の代替地(現在は不燃化促進用地として防災フェンスが設置されている)を対象に空間活用を行っていった。
昨年度までの調査・研究から、市街地全体の価値を高めるような公共性の高い活用を目指し、子ども向けのイベントを中心に、周囲の大人を巻き込んだ企画を展開している。

木造密集市街地における
景観デザイン・空間活用提案
△
工学院大学 KOGAKUIN UNIVERSITY × 街に、ルネッサンス UR 都市機構

-対象地の概要-

弥生町三丁目周辺地区は、西新宿から約 2km 圏に位置している。都心立地にも関わらず、閑静な住宅地であり、下町情緒のあふれドラマや映画のロケ地としても多く使われる川島商店街がある。また、町会や商店会を中心に地域のコミュニティ活動が盛な地域でもある。

しかし、木造住宅の密集する市街地は狭あい道路や行き止まり道路等が多く、災害危険性が高い。また、商店街は高齢化によるシャッター店舗増加の傾向が見られる等の問題を抱えている。

-昨年度までの活動-

当地区で防災まちづくり事業を行っていた UR 都市機構と協働し、木造密集市街地である中野区弥生町三丁目周辺地区の住環境の向上を図るため、「景観デザインガイドライン」の草案を作成した。また、「低未利用地の活用案」を提案するため、現地調査やヒアリング、事例研究などを行った。

中野区弥生町三丁目プロジェクト

Public Space Design for Densely Inhabited District

2017 年度の活動内容

今年度は、ハロウィンや東京行灯祭など【商店街主催のイベント】への協力と、それに合わせた【自主的な用地活用モデル企画】の二種類の活動を行った。

■企画スケジュール

「ハロウィンこうさく・アート展示企画」

10 月 24.26.29 日／11 月 3.4 日

「クリスマスこうさく・どうぶつしょうぎ企画」

12 月 19.21.24 日

【ハロウィン企画】

川島商店街で行われるハロウィンイベント及び東京行灯祭に協力する形で、UR 所有地を休憩・お楽しみスペースや写真撮影スポットとなるよう空間デザインした。ハロウィンこうさくは、低予算かつ簡単に楽しめる工夫で、地域の子どもたちに気軽に楽しんでもらえた。平日の日常企画としては10人程度の来場。イベントと合わせた日は 270 人程が来場した。

【クリスマス企画】

前回の企画にて「アートを体験するあそび」による集客の程度や企画の進め方などが把握できたため、クリスマス企画ではこうさく体験に加え、ボードゲーム等あたまを使う遊びを体験できるよう「おおきな立体どうぶつしょうぎ」を用紙した。また、企画に合わせ敷地前面の防護フェンスを白く塗装し、敷地の入りにくいイメージを緩和し、利用に関する興味関心を得られるような工夫も行った。気温が低く、外で長時間滞在することは想定していなかったが、平日は 10～20 人程、休日は 20～人程が来場した。

■敷地面積は、[幅 5.4m×奥行 16m]とやや縦長の敷地形状。

■周辺には「コスモ会館」というコミュニティスペースがあり、雨天時の開場として利用。また、備品を保管して頂いた。

■左図「ダンボールシェルター」は工学院大学鈴木研究室より提供。災害時の避難所にて実際に利用されている。